

プロが教える 洗車とボディケアの常識、非常識。

「ガラスコーティングの施工」

洗車後の下地作り→コーティングと流れるようなプロフェッショナルの仕事で、みるみる間に「元まっ赤なポルシェ」が、シヨールームレベルのピカピカな「まっ赤なポルシェ」になった。最新のガラスコーティングは、すっかり色褪せてしまったポルシェ968CSの輝きを取り戻し、しかも輝きを長持ちさせる。

Words | 帯津富雄雄 Photos | 石河正武



ガラスコーティング 編



今回のモデルカー
[’92ポルシェ968 CS]

ポルシェ968CS(クラブスポーツ)は、1992年から1995年までの3年間生産された。およそ20年で、ソリッドの赤はすっかり色褪せてしまった。ちなみに、この当時は保護用のクリア塗装はしないのが普通だった。今回は「どれだけ蘇るか」を示すためにフロントの半分だけをまず施工する。洗車後、エンブレムなどを保護(養生)することから作業開始。



ポルシェ968クラブスポーツは、既にあらかじめ洗車が終わっていた。塵も埃もないから、なおさら色褪せたボディがみずばらしい……。ところが日本自動車美容工業振興会の開発管理本部・管理部長で「オール・ワン」の田中弘樹さんは、ちっともひるんだ様子がない。数種類のバフとコンパウンドを使い分けて磨いていく。「コンパウンドにはキズ埋め剤の入ったものと入っていないものがあります。僕はキズ埋め剤が入っていないものの中から厳選して選んでいます」なぜかといえば、磨き終わりに脱脂のための洗車をするとキズ埋め剤も流れて、キズが復活するからだ。小キズは磨きの段階で「埋める」のではなく「消す」のが正しい。と、いっても塗装の厚みには限界がある。「どこまで磨いたらいいのか、その判断は技術者の経験と腕とセンスです」そう話すのは日本自動車美容工業振興会の荒井芳之代表だ。まあ素人が見よう見まねでできるような作業ではない。

05

コーティング施工前と施工後の比較

最後にボンネットの右側半分をすべてコーティング。向かって左半分がコーティング前の状態で、右半分がガラスコーティングを施工した部分となる。ご覧のとおりコーティングされた部分は、ボディの輝きが際立っている。



02



下地作り①
下地の磨き作業。使用するバフは施工する塗装面のコンディションに合わせて、荒めから極細かめまでの3種類か4種類。磨き剤もコンパウンドの異なるタイプを数種類使い分ける。今回は3段階の磨きをかける。

03



下地作り②
日本自動車美容工業振興会推奨のRYOBI製ダブルアクション・ポリッシャーを使用し、極細かめのバフで仕上げる「バフ目とり」と呼ばれる作業。マイクロファイバークロスで拭いて脱脂すれば、下地作りは終了。

04



コーティング施工
いよいよガラスコーティング！今回はアークバリアのガラスコート剤を使用。下地とコーティング後の輝きを比較しやすいように、下地作りの済んだ部分の半面だけにアークバリアを施工する。ちなみにアークバリアのガラスコーティングは、1度目の塗付でコート剤がもともとの塗装面に浸透して定着する。その後2度塗付し、3層コートするのがアークバリアの定番。

今回使用したコーティング剤



アークバリアのガラスコート剤と塗付用のマイクロファイバークロススポンジ、それに拭き上げ用のクロスを使用。いずれも市販されていない。またアークバリアではコート剤は1台に1本が原則。シリアルナンバーで厳密に管理されている。

「ワザ」を披露してくれたプロ

今回、ガラスコーティングの施工作業を見せてくれたのは、カーコーティングや革シートのリペアを専門とする「オール・ワン」の田中弘樹さん。そして、撮影場所を提供して下さった、R32～R34スカイラインのスペシャルショップ「カナザワ」の金沢延好代表。ちなみに今回のモデルカー、ポルシェ968CSは金沢氏の弟さんの秀好氏が代表を務めるスピードサスペンションワークのスペシャルショップ「ビルズ」の所有車である。



[Source]
(有)カナザワ
Tel.046-223-7319
Address.神奈川県厚木市金田1060-1
ビルズ
Tel.0493-81-4455
Address.埼玉県東松山市本宿1-23-14

一般社団法人 日本自動車美容工業振興会

Tel.03-6434-5137 www.japan47carclub.com

専門の訓練を受けた「クルマをキレイにする」業者が加盟する団体で、確かな技術のあるブランドやショップが加盟している全国組織。同振興会代表の荒井氏は、「これまで全国の磨き職人にお話をお聞きしました。皆さん一生懸命汗を流して磨かれていますが、多くの方が最後に塗るコート剤に満足していないのが本音のようです。私の知りうる限りでも合格点をつけられるのは国内に3種類しかないのが現状です。今後、皆様のご意見を取り入れ、より良いコーティング業界を目指していききたいと思います」と語る。



そして、プロの仕事で色褪せて白っぽくぼんやりしていたボディが、鮮やかな赤に蘇った。もちろん、あくまでも下地が整ったただだから、田中さんの作業はまだまだ続く。「ガラスコーティング剤もピンからキリまで……」ピンは定着性が高く、しっかりと硬化して、しかも透明度が高い。効果も長持ちする。ただし、キリに比べて伸びが悪くて、扱い慣れないとムラができて……つまり失敗する。いいガラスコート剤になればなるほど作業者の腕も問われる。「そんな施工の技術も含めて、お薦めのガラスコーティングブランドをご紹介します。ぜひお問い合わせください」そう語る荒井さんが代表を務める日本自動車美容工業振興会は日々、コーティングブランドを調査・研究している。そしてプロの立場で、推奨ブランドを紹介してくれる。